

**健診データを用いた非肥満者における非アルコール性脂肪性肝疾患の発症のリスク因子と  
非侵襲的肝線維化スコアリングの推移についての縦断的検討**

非アルコール性脂肪性肝疾患 (non-alcoholic fatty liver disease : NAFLD) は、頻度の高い慢性肝疾患であり、日本においても世界的にも増加傾向にある(1)。NAFLD は肝癌の発生源地になり(2)、また、NAFLD を有していると総死亡や心血管疾患のリスクが上昇することも報告されており(3)、重要な健康課題である。NAFLD は肥満者だけでなく、非肥満者にも発生し、nonobese NAFLD (BMI<25 kg/m<sup>2</sup>) や lean NAFLD (BMI<23 kg/m<sup>2</sup>) が近年注目されてきているが、リスク因子や予後についての報告は乏しく、一定の見解は得られていない。先行研究の多くは横断研究であり、特に体重変化を縦断的に検討した研究は少ない。このような背景から、非肥満者における NAFLD の発症のリスク因子や、非肥満の NAFLD の病状の進行に関与するリスク因子を検討することは、予防医療や健診の有効活用の観点から意義のあることと考えられる。今回、聖路加国際病院附属クリニック 予防医療センターにご協力いただき、2008年1月1日から2018年12月31日までの健診データを解析する機会をいただいた。抄読会では、健診受診者の特徴、NAFLD の合併率などを記述した結果と、体重変化に着目した現在検討中の解析方法について発表する。

(1) 日本肝臓学会編. NASH・NAFLD の診療ガイド 2015. 文光堂 2015.

(2) Tateishi R, Okanoue T, Fujiwara N, Okita K, Kiyosawa K, Omata M, et al. Clinical characteristics, treatment, and prognosis of non-B, non-C hepatocellular carcinoma: a large retrospective multicenter cohort study. J Gastroenterol 2015 Mar;50(3):350-360.

(3) Musso G, Gambino R, Cassader M, Pagano G. Meta-analysis: natural history of non-alcoholic fatty liver disease (NAFLD) and diagnostic accuracy of non-invasive tests for liver disease severity. Ann Med 2011 Dec;43(8):617-649.